

テーマ：多文化の共生 対象：市内在住または通学の中学生・高校生・大学生に相当する年齢の人 主催：安佐南区内 10 公民館

【令和 3 年度安佐南区内公民館ネットワーク事業】

G-②うちの身近な SDGs

～フィリピンの子どもたちに服を届けよう！～

地域を学ぶ		地域でつながる	○	地域に還す	
-------	--	---------	---	-------	--

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習・活動内容
10月30日(土) 9:30~12:30	沼田 公民館	SDGs について講義 (NPO 法人ひろしま NPO センター) FEST-HIROSHIMA の活動及び企画内容について説明 衣類回収プロジェクトプチ企画
11月14日(日) 10:00~12:00	安 公民館	衣類回収プロジェクト 1 SDGs ゲーム等を通して SDGs に触れてもらう。 (衣類回収・仕分け)
11月21日(日) 10:00~12:00	大塚 公民館	衣類回収プロジェクト 2 (衣類回収・仕分け) ※仕分けに集中するため SDGs ゲームは行わない。
11月28日(日) 10:00~12:00	祇園 公民館	衣類回収プロジェクト 3 (衣類回収・仕分け) ※仕分けに集中するため SDGs ゲームは行わない。
12月19日(日) 10:00~12:00	沼田 公民館	SDGs を自分ごと化するワークショップ ① 社会の困りごとの解決策を考えてみる ② みんなの困りごととして解決策を考えてみる ③ わたしの SDGs 行動宣言 発表

【実施過程における軌道修正】

- ・11/14、予想以上の回収量となったため、大量にリサイクルしなければならない衣類が生じてしまった。方針変更して、現地に送れない物（冬物など現地のニーズに合わない物）は、目の前で仕分けをし、理由を説明してお持ち帰りいただくことに変更した。
- ・11/28以降、人手不足及び衣類を持って来られた方を待たせないために、SDGs ゲームは行わず、回収の回転率を最大限に上げることを最優先した。
- ・現地に送れない衣類の持ち帰りをされない場合は、リサイクルに持ち込むことを了承いただき引き取る。



対象	市内在住または通学の中学生・高校生・大学生に相当する年齢の人
経費	無料
連携先	学生国際協力 NGO FEST-HIROSHIMA, 安佐南区公民館, NPO 法人ひろしま NPO センター

問合せ先

広島市古市公民館

〒731-0123 広島県広島市安佐南区古市三丁目 24 番 8 号

電話：082-877-2677 ファクシミリ：082-877-2757

2 講座設定の理由（学習の目的）

○次世代を担う青少年を対象に、SDGs について学び、実際の活動を体験する機会を通して、地域社会のみならず地球規模の課題を解決していける人材の育成を目指す。

3 学習目標

○身近な SDGs について学ぶことで、SDGs と自分達の生活が強く結びついていることを理解する。

○リサイクルやリユース等、環境を考えた行動をとることができる。

○衣類回収プロジェクトの活動を通して、持続可能な社会をつくる一員としての意識が芽生え、地域住民同士の連帯感を高める。

4 事前に必要な知識や準備物

○講師や外部団体(異文化理解・多文化共生に関わる団体、NPO 法人等)との連携を行う。

○職員も SDGs について事前学習を行う。

5 留意点

○衣類回収プロジェクト（衣類回収・仕分け）の日程は、祇園地区、安古市地区、沼田地区など複数の会場で開催できるよう調整し、寄付者は最寄りの会場を選べるようにする。

○受講対象は市内在住または通学の中学生・高校生・大学生に相当する年齢の人。

○地域内学校へチラシを配布するなど広く住民参加を呼びかける。

6 成果

○住民（大学生）の相談を契機に SDGs について学習する機会を事業化できたことは、職員が企画する事業に比べ、住民の自発性に基づくまちづくりに繋がりやすく着実な成果を得たといえる。

○SDGs をテーマに大学生と地域住民を結び付けたことで、世代間の学習交流の機会となった。また、青少年層のボランティアな活動を具体的な行動によって引き出すことで、住民への意識啓発にも波及効果があったと思われる。

○ターゲットを青少年層に合わせたことで、公民館の平均的な課題である未利用層にアプローチすることができた。

7 課題

○コロナ禍の影響で、ミーティングなどのプロセスが十分に構築できなかった。講師や連携団体との打ち合わせなど、オンラインをもっと活用すれば、情報共有がさらに充実していたかもしれない。

○初回の寄付衣類の分類では手間取ることが多くあったが、その後、学生スタッフや受講参加者らのアイデアで大きく改善が図られた。

★実施途中でも軌道修正をすることで改善できることは、思い切って変更する。

○集まった衣類の量が想定を超えたため、物資の保管場所の確保、提供先への輸送調整及び輸送経費の調達など、実施に新たな課題が生じた。

★再検討し、クラウドファンディングで輸送経費を調達することとした。

8 今後に向けて

○今後も学生国際協力 NGO 等の外部団体と協働でプロジェクトを実施することを考えている。

○今回のような、区内 10 公民館で連携・協力して行うネットワーク事業を継続性のある事業に発展させたい。